

1 単元のねらい

日本の民主化と再建の過程や国際社会の復帰、冷戦等を調べたり、考えたりする活動を通して、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解するとともに、諸改革の展開と国際社会の変化などに着目し、それらを相互に関連付けながら現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

高度経済成長や国際社会との関わりなどを調べたり、考えたりする活動を通して、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解するとともに、政治の展開と国民生活の変化などに着目し、それらを相互に関連付けながら現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦、我が国の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸改革の展開と国際社会の変化、政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)及び(イ)について現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本と世界について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

●学習改善につなげる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5	6	7
知識・技能	●	●	○	●	●		○
思考・判断・表現		●		●		○	
主体的に学習に取り組む態度	●						○

3 単元構造図 (全7時間) ☆獲得する認識

単元名 戦後日本の出発 冷戦と日本の発展	単元学習前の生徒の認識 第二次世界大戦や太平洋戦争によって、世界中で多くの犠牲が払われた。連合国のポツダム宣言を受け入れて降伏した日本は、冷戦などの世界との関わりの中でその後どのように発展をとげていったのだろうか。
----------------------------	--

第1時 占領下の日本 【●主体的に学習に取り組む態度, ●知識・技能】

戦時中と比べてGHQに占領された日本国民の生活はどう変化したのだろうか。

☆非軍事化 ☆マッカーサー ☆GHQ ☆戦後改革 ☆極東国際軍事裁判

戦後の日本は焼け野原であり、アメリカを中心とするGHQに占領された。また、マッカーサー率いるGHQにより軍隊を解散させられ、戦争に関わった人々は処罰・追放され、徹底的に非軍事化が行われた。その後、急速に復興して、東京オリンピックも開催されることになった。なぜこのような発展ができたのだろうか。

第2時 民主化と日本国憲法 【●知識・技能, ●思考・判断・表現】

日本国憲法が制定された日本には、どんな変化があったのだろうか。

☆民主化 ☆財閥解体 ☆農地改革 ☆日本国憲法 ☆国民主権 ☆基本的人権の尊重
 ☆平和主義 ☆教育基本法

GHQの戦後改革として、財閥解体や農地改革を行った。それは政府や財閥、地主といった一部の人たちがもっていた権限を制限し、国民に広げることで民主的な国家づくりを目指すためであった。そうした中で、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を3つの柱とする日本国憲法が制定された。その結果、教育基本法が制定されるなど民主化への動きが加速した。

第3時 冷戦の開始と植民地の解放

【○知識・技能】

冷戦が始まったことによって、世界はどのように変化したのだろうか。

☆国際連合 ☆北大西洋条約機構 ☆冷戦
 ☆ワルシャワ条約機構 ☆朝鮮戦争

アメリカとソ連の対立から世界の国々が東側と西側に分かれ、冷戦に突入した。また、植民地支配を受けていたアジアやアフリカの国々が独立を果たした。

第4時 独立の回復と55年体制

【●知識・技能, ●思考・判断・表現】

経済復興をとげた日本はどのように国際社会へと復帰したのだろうか。

☆サンフランシスコ平和条約 ☆安保闘争
 ☆日米安全保障条約 ☆55年体制

日本は、アメリカを始めとする48カ国とサンフランシスコ平和条約を結び独立したが、アメリカと日米安全保障条約を結んだ。その結果、1960年の安保闘争へつながっていく。

第5時 緊張緩和と日本外交

【●知識・技能】

緊張緩和によって、日本の外交関係はどのように変化したのだろうか。

☆日ソ共同宣言 ☆日韓基本条約
 ☆日中平和友好条約 ☆非核三原則

冷戦の緊張緩和が進む中で、日本は東側陣営や戦争状態にあった国々と条約などを結び、関係を改善していった。また、沖縄復帰の過程で、佐藤栄作内閣はアメリカに対し、非核三原則という国の方針を打ち出し、世界で唯一の被爆国である日本の矜持を示した。

第6時 日本の高度経済成長

【○思考・判断・表現】

なぜ、戦後10年で経済発展を遂げることができたのだろうか。

☆高度経済成長 ☆公害問題
 ☆オリンピック・パラリンピック

戦前からの技術力を生かして産業を発展させたことで、国民の生活が向上した。そして、苦しい状況に耐えながら、復興のために力を尽くした多くの国民がいたから、経済発展をとげることができた。しかし、公害問題等の問題を引き起こすこととなった。

第7時 マスメディアと現代の文化 【○知識・技能, ○主体的に学習に取り組む態度】

現代の日本社会の変化によって、どのような文化がつけられていったのだろうか。

☆マスメディア ☆テレビ放送 ☆インターネットの発達

戦後、日本ではGHQの占領政策に反しない範囲で言論の自由が回復され、新聞や雑誌が普及するようになった。また、インターネットの発達によって、国境を越えて高速でやりとりができるようになった。今のICTの発達につながっているのだな。

戦後の諸改革から冷戦の中で日本は、なぜ経済発展をとげることができたのだろうか。

【単元後学習後の生徒の認識】

ポツダム宣言を受け入れた日本が10年で経済成長を遂げられたのは、大戦後の混乱の中、GHQの下で非軍事化を果たして民主的な国家として再出発したからである。冷戦の中で資本主義国家として独立することになったが、社会主義国家とも外交関係を結び国際社会で認められる国となった。また、戦前からの科学技術を生かして産業を発展させたことで、国民の生活が向上した。そこには、苦しい状況に耐えながら復興のために力を尽くした多くの国民がいた。経済発展をとげた日本は、今後どのように歩みを進めていくのだろうか。

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	◇資料・指導援助
1 占領下の日本	GHQに占領された日本について調べる活動を通して、戦後改革を経て日本が急速に発展していくことに気づき、「戦後の諸改革から冷戦の中で日本は、なぜ経済発展をとげることができたのだろう。」という単元を貫く課題に見通しをもって主体的に取り組もうとすることができる。 ☆北方領土 ☆マッカーサー ☆GHQ ☆戦後改革 ☆極東国際軍事裁判 ☆戦後改革	1 戦時中の写真と戦後の写真を比較することで違いに気づき、課題化する。 ・敗戦直後は日本のほとんどが焼け野原になっていた。 戦時中と比べてGHQに占領された日本国民の生活はどう変化したのだろう。 2 資料をもとに、戦後改革について読み取る。 ・アメリカ軍を中心とする連合軍によって占領された。 ・マッカーサーを最高司令官とするGHQによる戦後改革が行われた。 ・非軍事化が行われ、軍隊を解散させられた。 ・極東軍事裁判が開かれた。 3 GHQの戦後改革を経て、今後日本が急速に発展していくことを理解して、単元を貫く課題を設定する。	戦時中の日本と戦後の日本国民の生活の違いから、戦後改革について理解し、単元を貫く課題をつくっている。 【知・技】 課題に対する考えをもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】	◇P236,237 ◇青空教室 ◇マッカーサー ◇復員と引き上げの状況 ◇闇市の様子 ◇極東軍事裁判 ◇年表 p250 ・様々な改革によって、国や国民生活がどう変化したのか気づくことができるようにする。
		戦後の日本は焼け野原であり、アメリカを中心とするGHQに占領された。また、マッカーサー率いるGHQにより軍隊を解散させられ、戦争に関わった人々は処罰・追放され、徹底的に非軍事化が行われた。その後、急速に復興して、東京オリンピックも開催されることになった。なぜこのような発展ができたのだろう。		
2 民主化 日本 憲法	占領下の日本で行われた民主化政策を調べることを通して、国民生活に着目し、日本に与えた影響について考察し、表現することができる。 ☆財閥解体 ☆農地改革 ☆日本国憲法 ☆国民主権・平和主義・基本的人権の尊重 ☆教育基本法	1 日本が民主化されたことを知って課題化する。 日本国憲法が制定された日本には、どんな変化があったのだろう。 2 資料から民主化が与えた影響を読み取る。 ・財閥を解体させたことによって、いろんな会社生まれ自由で競争できるようになった。 ・農地改革によって、自作地や自作農が増え、自分の力で生活できる人が増えた。 ・日本国憲法が制定され、国民主権・平和主義・基本的人権の尊重が大切にされた。 ・個人の尊重や男女の平等が大切にされた。 3 本時の学習についてまとめる。	占領下の日本で行われた民主化政策を理解し、国民生活がどのように変化したのか考察し、表現している。 【知・技】 【思・判・表】	◇あたらしい憲法のはなし ◇農地改革による変化 ◇初の男女普通選挙 ◇憲法の比較 ◇財閥解体 ・民主化によって変化したことに着目させる。 ・財閥解体と農地改革の仕組みを補足説明する。
		GHQの戦後改革として、財閥解体や農地改革を行った。それは政府や財閥、地主といった一部の人たちがもっていた権限を制限し、国民に広げることで民主的な国家づくりを目指すためであった。そうした中で、国民主権・基本的人権の尊重・平和主義を3つの柱とする日本国憲法が制定された。その結果、教育基本法が制定されるなど民主化への動きが加速した。		

<p>3</p> <p>冷戦の開始と植民地の解放</p>	<p>米ソ両国の対立を調べることを通して、冷戦によって世界の国々の立場が変化してきたことに気づき、アジア、アフリカでは欧米諸国からの独立が進んだことを理解することができる。</p> <p>☆国際連合 ☆西側 NATO ☆東側 ワルシャワ条約機構 ☆冷戦 ☆中華人民共和国 ☆朝鮮戦争 ☆南北問題</p>	<p>1 国際連合が設立されたことを知って課題化する。</p> <p>冷戦が始まったことによって、世界はどのように変化したのだろう。</p> <p>2 資料から、冷戦開始後の世界の変化を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本主義のアメリカと共産主義のソ連が対立した。 ・ソ連が東ヨーロッパを、アメリカが西ヨーロッパを支援して、ドイツは東西陣営に分裂した。 ・中国や朝鮮半島でも国が分裂し、朝鮮半島では朝鮮戦争が勃発した。 ・米ソ両国は軍備拡張を競い合った。 ・戦前に植民地支配を受けていたアジアやアフリカでは、多くの国々が独立した。 ・発展途上国と先進工業国との経済格差は南北問題と呼ばれた。 <p>3 本時の学習についてまとめる。</p>	<p>米ソ両国の対立から、冷戦によって世界の国々の立場が変化してきたことに気づき、アジア、アフリカでは欧米諸国からの独立が進んだことを理解している。</p> <p>【知・技】</p>	<p>◇国際連合 ◇東西の対立 ◇ベルリンの壁 ◇朝鮮戦争の経過 ◇第二次世界大戦後のアジア・アフリカの独立国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本主義と社会主義のちがいをおさえる。 ・イスラエルの成立とパレスチナ問題について補足説明する。
<p>アメリカとソ連の対立から世界の国々が東側と西側に分かれ、冷戦に突入した。また、植民地支配を受けていたアジアやアフリカの国々が独立を果たした。</p>				
<p>4</p> <p>独立の回復と55年体制</p>	<p>日本がどのようにして、国際社会に復帰したかを調べる活動を通して、アメリカとの関係に着目し、独立の影響について考察し、表現することができる。</p> <p>☆朝鮮戦争 ☆特需景気 ☆自衛隊 ☆吉田茂内閣 ☆サンフランシスコ平和条約 ☆日米安全保障条約 ☆55年体制 ☆安保闘争</p>	<p>1 日本経済が回復したことを知り、課題化する。</p> <p>経済復興をとげた日本はどのように国際社会へと復帰したのだろう。</p> <p>2 資料から、独立の歩みを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が経済復興してきた。 ・アメリカなど48カ国とサンフランシスコ平和条約を結んだ。 ・東側陣営や日本が侵略したアジアの国々とは講話を結ぶことができなかった。 ・アメリカと日米安全保障条約を結ぶ。 ・安保条約によって、占領後も日本にアメリカ軍の基地が残されることになった。 <p>3 アメリカが日本を独立させた理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度独立してしまえば、外国は占領できない。 ・ドイツも朝鮮半島も敗戦した地域だったから、アメリカやソ連が占領して思い通りの政策ができた。 <p>4 本時の学習についてまとめる。</p>	<p>日本の国際社会に復帰について知り、アメリカとの関係から独立の回復と影響について考察し、表現している。</p> <p>【知・技】 【思・判断・表】</p>	<p>◇日本経済の復興 ◇自衛隊の発足 ◇サンフランシスコ平和条約調印 ◇日米安全保障条約 ◇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮戦争に在日米軍が出動すると、日本国内の治安がどうなるのか考えるようにする。
<p>日本は、アメリカを始めとする48カ国とサンフランシスコ平和条約を結び独立したが、アメリカと日米安全保障条約を結んだ。その結果、1960年の安保闘争へつながっていく。</p>				

<p>5</p> <p>緊張緩和と日本外交</p>	<p>冷戦の緊張緩和が進展する中での日本の外交関係を調べることを通して、ソ連や中国など日本の独立を承認しなかった国々との関係を深めて国連にも加盟できたこと、沖縄の日本復帰が果たされたことを理解できる。</p> <p>☆アジア・アフリカ会議 ☆ベトナム戦争 ☆日ソ共同宣言 ☆日韓基本条約 ☆日中共同声明 ☆日中平和友好条約 ☆非核三原則</p>	<p>1 冷戦の緊張緩和の様子を知り、課題化する。</p> <p>緊張緩和によって、日本の外交関係はどのように変化していったのだろう。</p> <p>2 資料から、世界の動きと日本の動きを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日ソ共同宣言を調印して東側陣営との関係を結んだことで、国際連合に加盟して国際社会に復帰した。 ・日本の占領地になった東南アジア諸国との賠償問題を解決した。 ・日韓基本条約や日中平和友好条約を結び、国交を正常化した。 <p>3 沖縄の日本復帰の流れを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ統治から復帰し、サンフランシスコ平和条約の問題点が解消された。 ・非核三原則が国の方針となり、核の廃絶を訴える立場が明らかになった。 ・アメリカ軍基地はあまり縮小せず、現在も多くの問題が起きている。 <p>4. 本時の学習についてまとめる。</p> <p>冷戦の緊張緩和が進む中で、日本は東側陣営や戦争状態にあった国々と条約などを結び、関係を改善していった。また、沖縄復帰の過程で、佐藤栄作内閣はアメリカに対し、非核三原則という国の方針を打ち出し、世界で唯一の被爆国である日本の矜持を示した。</p>	<p>日本がソ連や東アジアの国々と外交関係を深めて国連に加盟したこと、沖縄の日本復帰が果たされたことについて理解している。</p> <p>【知・技】</p>	<p>◇世界の動き・日本の動き</p> <p>◇友好の記念として中国からおくられたパンダを見物する人々</p> <p>◇佐藤栄作</p> <p>◇沖縄島周辺のアメリカ軍基地</p> <p>・外交関係を調べることで、アジア諸国との関係が改善したしていったことを理解できるようにする。</p>
<p>6</p> <p>日本の高度経済成長</p>	<p>高度経済成長期における国民の生活の変化を調べることを通して、日本が急速に経済発展を遂げたのは、国民が生活の向上のために懸命に学んだり働いたりして、政府や企業がそれを支えたからだと考え、表現することができる。</p> <p>☆高度経済成長 ☆東京オリンピック・パラリンピック ☆公害問題 ☆石油危機 (オイルショック)</p>	<p>1 高度経済成長と生活変化の様子を知り、課題化する。</p> <p>なぜ、戦後10年で経済発展を遂げることができたのだろう。</p> <p>2 資料から、経済発展の要因を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮特需から技術革新が進み、鉄鋼や造船が盛んになっていった。 ・東京オリンピックに向けて、新幹線や高速道路といった設備が整えられた。 ・地方から出稼ぎに来た人々が労働力となった。 <p>3 高度経済成長の影響を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染や水質汚濁といった公害問題が深刻化した。 ・石油危機など、世界経済の影響を受けた。 <p>4 本時の学習についてまとめる。</p> <p>戦前からの技術力を生かして産業を発展させたことで、国民の生活が向上した。そして、苦しい状況に耐えながら、復興のために力を尽くした多くの国民がいたから、経済発展をとげることができた。しかし、公害問題等の問題を引き起こすこととなった。</p>	<p>経済発展を遂げた理由について、国民生活の変化の視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【思・判・表】</p>	<p>◇日本の国民総生産の推移</p> <p>◇電化製品の普及</p> <p>◇東海道新幹線</p> <p>◇東京オリンピック</p> <p>・経済発展の理由をGHQの政策、産業の発展、国民の努力の視点から考え、単元のまとめを書けるようにする。</p>

<p>7</p> <p>日本のマスメディアの発達の歴史を調べることを通して、マスメディアにより生活に変化が起きたことを理解することができる。</p> <p>☆マスメディア ☆インターネット ☆テレビ放送 ☆黒澤明</p> <p>現代の文化</p>	<p>1 ラジオについて知っていることを交流する。</p> <p>現代の日本社会の変化によって、どのような文化がつけられていったのだろう。</p> <p>2 資料から考えをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本社会では、GHQの占領政策に反しない範囲で、言論の自由が回復された。 ・大衆の娯楽としては映画が人気を集め、監督の黒澤明などは世界的にも高い評価を受けた。 ・1953年にはテレビ放送が始まり、週刊誌も広く読まれるようになった。 ・1990年代後半から、インターネットが普及し、文字、音声、画像など大量の情報を、国境を越えて双方向にやり取りできるようになった。 <p>3 現代のさまざまなマスメディアやインターネットが人々の生活に与えた影響を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量の情報を、双方向にやりとりできることにより、日本の文化が海外に広まったり、逆に海外の文化が日本に入ってきたりするようになった。 <p>4 本時と単元の学習についてまとめる。</p>	<p>マスメディアの中心が、社会の発展とともに変化してきたことを理解している。</p> <p>【知・技】</p> <p>これまでの学びとつなげ、探究課題に対する自分の考えを主体的にまとめている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>◇マスメディアや情報通信機器、インターネットの普及</p> <p>◇街頭の白黒テレビで力道山のし合いを見る人々</p> <p>◇茶の間のテレビでアポロ11号の月面着陸を見る家族</p> <p>◇鉄腕アトム</p> <p>◇黒澤明</p> <p>・自分の生活と比較しながら、私たちにためのマスメディアの重要性に気付かせる。</p>
<p>戦後、日本ではGHQの占領政策に反しない範囲で言論の自由が回復され、新聞や雑誌が普及するようになった。また、インターネットの発達によって、国境を越えて高速でやりとりができるようになった。</p>			